

京都大学基礎物理学研究所

8月10日 (朝) 山田

事務的連絡

自己紹介

1. 野上 (中口の科学と科学者)

吾界と日本にとっての中口. Pug. 一科学.

中口の科学者 科学者としての共通性.

中口の現状からの特異性 [予見と野望
科学的 科学的
美意識と エリート]

中口政府の基本路線に肉する formula (予野)

[中口の科学] 12年計画の行系.

1949-革命 1950-53 朝鮮戦争 1953-57 第一次5年.

1958-62 第二次5年計画

周培源 III No. 9 (59) Scientific World

轟栄深 1958年 8月 21日 人民日報

back. collectivization → 工業化.

1955年末より69月内 12年計画 → 12年で日附水準へ.

1. Task Plan. 生産の要求 57の task (順位) 中11の緊急

1955は経済的
1958新しい自然
科学の基礎的課題
information center

2. Science Plan. 科学自身の内部的発展法則.

57の項目をわけて研究課題

1962年に第二次終了 工業用機械の90%を自給 → 第二次以降は自給的. Science plan

a) 研究上の課題行次

b) 研究、トレーニング機内の整備

c) 研究者養成

d) 日附協力の

c092-005-004

No. 6 1961. 3. 5,000

京都大学基礎物理学研究所

後期は flexible に

1955年 研究所内の改組

1. 科学院 5部 ⁴⁶⁽¹⁹⁵⁶⁾ 44研究所 ₍₁₉₅₅₎
2. 地方研究所
3. 産業部内研究所
4. 大学 150(1958) ^{学(総合大学)} 70,000(1958)

自然科学研究部署

Doctoral level ~800
Other ~6,200
補助者 33,000

各 level の人の養成 と 前記ある配置

口附協力. 1) ソ及交交口. との協力.

1958年6月 重水実験炉完成 (1連5) 7,000~10,000KW

サイクロトロン (α : ~~25~~ 25 MeV.) 1連3.

大型高性能 Diffusion pump が 2台 355mm 口径.

specimen, emulsion, counter, scint. counter, photomul, multichannel anal.

中口科学者と政治

大衆の back (社会主義の意欲)

科学者の姿勢. 教育と研究. 本来のべきは専ら内分には

基本的なものは外口は頼らず自分で作りあげる (おわり)

空白分野

京都大学基礎物理学研究所

(宇野)

- 社会主義陣営の中での中口。
- 中口の基本路線。中口の公式見解の中から。

時代の認識。(レーニン主義の方)

1 時代の規定。—— ^(レーニン) 資本主義の最終段階としての帝国主義 ^(階級内存在見) の本質的不変

新時代の特徴

- 社会主義の世界政權勝利の自立 (資本主義体制との対立)
- 人民地体制が存続しつつある
- (科学技術の飛躍的進歩)

2. 戦争と平和 : 階級政治の一形態 — 尖鋭化(戦争)。

1. と 2. 5) 帝国主義側のひき起す戦争の可能性。

平和共存は賛成 — 社会主義は平和に対して躊躇はする

■ 帝国主義が平和共存を躊躇とし、それをやめる

支配階級が平和的に政權を人民にわたしたことを許さず。

平和革命、平和共存に賛成するか、警戒を怠るか。

↳ これは支配階級の抵抗に depend

3. 世界史の決定 —> 人民大衆

自覚し、~~世界~~ 團結して 組織、これを人民の力は無敵。

これが戦争を防止。

平和を守る運動と社会主義を樹立する斗争は、一つのことで、一つのことであり、

被抑圧民族の革命を支持。

予備) 口と口。 被抑圧民族と厄地者

平和共存 革命を押し進め

京都大学基礎物理学研究所

全面軍縮は大切だが、すべての口をいそがしめるの内政
ではない。

No. 6 1961. 3. 5,000